

令和5年度第3回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和5年度第3回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和6年3月15日（金） 午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 多目的ホール
- 4 出席者
 - (1) 委員 阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、宇津野泉委員、大内早智子委員、小野寺忍委員、小山亜希子委員、加藤沙央里委員、小岩邦弘委員、齊藤裕美委員、佐々木承子委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、千田久美子委員、千田好記委員、千葉真美子委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田捺委員、吉田正弘委員
 - ※欠席者 及川恵理子委員、西條恵美子委員、佐藤泰彦委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、三浦幹夫委員
 - (2) 事務局 菅原稔市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、鈴木敏宏政策企画課長補佐兼政策推進係長、谷藤義拓政策企画課主任主事

5 議 題

- (1) 令和6年度予算の概要、総合計画実施計画（令和6・7・8年度）について
- (2) 令和6年度における審議会開催等のスケジュールについて
- (3) 次期総合計画策定体制について
- (4) 次期総合計画策定に向けたアンケート調査について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 2人

8 小岩会長挨拶

年度末のお忙しいところお集りいただきありがとうございます。

本日は来年度から始まる次期総合計画策定に向けたスケジュール等の議題がある。

（1）の令和6年度の予算の概要と実施計画についても大変重要な案件ではあるが、1時間半という限られた時間であり、また、様々な課の予算がある状況で、出席している職員では回答できないところもあると思うので、後日質問を受け付け、回答するということで進める。

まずは令和6年度から始まる基本構想の策定に向けて、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

9 審議内容

- (1) 令和6年度予算の概要、総合計画実施計画（令和6・7・8年度）について事務局から資料No.1、2に基づき説明を行った。
質問や意見は会議後にオンライン等で受け付け、後日回答することとした。
- (2) 令和6年度における審議会開催等のスケジュールについて
- (3) 次期総合計画策定体制について
事務局から資料No.3、4に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 現委員の任期である令和7年7月までにやらなければならないことを確認すると、まず、基本構想は令和6年末までには答申を行い、それと同時進行で前期基本計画策定に入ることである。

基本構想が何かというのは、資料No.2の実施計画に記載しているところである。

総合計画は3層構造となっており、基本構想は目指すべきまちの将来の姿を明らかにするとともに、その将来像の実現のためのまちづくりの基本理念と基本目標を定めるものである。

現総合計画の後期基本計画の冊子の最初の部分にあるのが基本構想であり、これを作る作業を令和6年12月までに行う。

それと同時進行で行う前期基本計画の策定は、その後ろにある具体的なことを記載している部分であるが、まずは基本構想を作らなければならない。

基本構想を作るためには多くの市民の方々からご意見をいただく必要があり、そのためにアンケートやワークショップ、タウンミーティングを行いたいというスケジュールである。

前回基本構想策定時の流れを事務局から説明願いたい。

事務局 現在の基本構想を策定するにあたり、どのような組織体制であったか、また、どのような形で市民の皆さんから意見をいただいたかというところを時系列に沿って説明する。

前回も4月に開催した第1回目の審議会において市長から諮問を行い、併せてアンケートの内容について意見をいただいた。

6月に第2回目の審議会を開催し、そこでアンケートの内容やワークショップの開催についてご意見を頂戴した。

アンケートは、6月下旬から7月までの間で実施したところであり、このアンケートの中身については後ほど説明する。

8月上旬には、わたしたちの一関（まち）の未来づくりワークショップを開

催し、年齢などは問わず、広く参加の募集をしたところ、270人の市民の皆さんに集まっていたいただき、将来のまちのイメージなどについてご意見をいただいた。

ワークショップやアンケートの結果を受けて、総合計画審議会の中で、どのようなイメージで10年後のまちの目指すべき姿を考えていくかという検討をしていただいた。

審議会という大人数で意見を出すとなると時間が限られるため、プロジェクトチームを作ることにについて審議会の中で議論いただき、組織の設置を決定した。

プロジェクトチームは、9月に2回、10月に1回、11月に1回の計4回開催し、基本構想のたたき台を検討していただいた。

プロジェクトチームの中でたたき上げた素案を、次は審議会に諮り、意見をいただき、またプロジェクトチームに戻し、審議会で検討するという流れで実施してきた。

基本構想の素案がある程度出来たタイミングで、タウンミーティングを一関地域、千厩地域、東山地域の3か所で実施した。

このタウンミーティングを受けて、意見を素案にどう反映していくか再度プロジェクトチームで検討いただき、その後審議会に諮り、最終的には12月に基本構想の答申をしたという流れで前回は進めたところである。

会 長 10年間の一関の基本構想であるので、多くの市民の方々からの意見を聞いてまとめていくことになる。

10年前はアンケートやワークショップを実施し、それと同時進行でまちづくりスタッフ会議というものも何回か開催し基本構想を練り上げていった。

令和6年度は我々が行うことになるので、タイトなスケジュールとなっており、会議の回数が増えることもあり得る。

委 員 市の代表である市長には、総合計画策定にあたり、話をたくさん伺いたいと思っており、市民の話も聞いていただきたい。

総合計画審議会の委員を2期務めているが、この会議に市長が来たことがないような気がするのでよろしくお願ひしたい。

委 員 基本構想の中で、達成されたもの、達成できずにまた10年後に向けて計画を練り直さなければならないものはあるか。

事務局 基本構想の期間は10年間であるが、個々の目標については5年間ごとの基本計画で定めている。

基本計画における目標に対する進捗状況は、毎年報告しているところである

が、今回新たな計画をつくるにあたり、現時点での進捗、現状、なぜ目標を達成できそうにないのかといった点も抽出し、皆様にお示ししたいと思っている。

会長 基本構想ではまず、10年後に一関市がどうあったらいいか、どうあるべきかというのを決めることになる。

今の基本構想では将来像として「みつけよう 育てよう 郷土の宝 いのち輝く一関」というのを最初に決めて、これに基づいたまちづくりの考え方を「郷土の宝物」地域資源を活用しよう、「市民主体」自ら考え共に行動しよう、「次世代人材支援」郷土を誇りに思う心を育てよう、「安全・安心」みんなで支え合い暮らしていこうと決めたところまでが基本構想の部分である。

これを具体的なものに落とし込んだのが、前期基本計画と後期基本計画である。

前回の審議会で後期基本計画の指標の進捗状況の報告があったが、そのような形で各事業が入ってくる。

委員 審議会全体会には、現在の審議会の委員は、原則すべて参加するということだと思うが、前回策定時にプロジェクトチームという名称で行った分科会については、特定のテーマに沿ってそれぞれのプロジェクトチームを設け、そこに委員を何人かに振り分けて行うということなのか、また頻度としては何回ぐらい想定しているのか。

さらには、全体会とプロジェクトチームとの関係について、プロジェクトチームで議論した後に、どういう形で全体会を開催するのかというイメージをお聞かせいただきたい。

事務局 プロジェクトチームは、審議会全体会に基本構想の素案を諮るにあたって、その前段として、アンケートやワークショップで出た意見をどのように基本構想に入れ、どのような文言にしていくかということを検討し、たたき台を作るようなイメージであり、10年前にもそのような形で実施してきた。

委員 プロジェクトチームは1つだけということか。

会長 アンケートやワークショップの結果を見て、1つにするか、分科会形式にするかということをお皆さんと議論して決めていかなければならないと思っている。

委員 令和7年7月以降は、まちづくりスタッフ会議（仮称）を設けるということだが、前回策定時におけるプロジェクトチームにあたるものがまちづくりスタッフ会議（仮称）になっていくということか。

事務局 令和7年7月以降の審議会は、市長から諮問を受け、まちづくりスタッフ会議（仮称）で検討した草案について市長に答申するというイメージであり、ま

ちづくりスタッフ会議（仮称）はプロジェクトチームのようなものを想定している。

(4) 次期総合計画策定に向けたアンケート調査について

事務局から資料No.5、参考資料No.1～8に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 郵送するという事は紙媒体での実施を考えているのか。

最近だと二次元コードでスマホからアクセスして簡単に回答できるものもあるので考えを聞かせていただきたい。

事務局 回収方法として想定してるのは、紙媒体とオンラインでの回収という方法を考えている。

資料No.5にある市民アンケートの4,500人という人数設定は、このくらいに配布しないとある程度の正確性が担保できないという数であり、アンケートに回答いただく方は無作為ではあるが、市が抽出する必要がある、抽出した人に回答をお願いして、紙かオンラインでの回答を選択してもらうという方法で考えている。

委員 今の説明だと4,500人のサンプルがないといけないということか。

回収が4,500人に満たなかった場合、その不足分をまた発送することになるのか。

事務局 令和元年度に実施した際の回収率は36%であったが、この回収率をある程度想定し、例えば3割返ってくればある程度の信頼度が担保できるという前提があった上での4,500人という設定である。

追加でアンケートを発送するという事は考えていない。

会長 先ほど事務局から説明した前回策定時の会議等の進め方について追加資料を配布するので参考としていただきたい。

委員 アンケートの回答内容はその捉え方によって、別な方向に行ってしまう可能性もあるので、工夫しながら設定していただきたい。

また、10年後のことを考えると、中高生の考えは重要だと思う。

一関市を出たことにより、一関市の良さが見えることもある。

まちづくりに関わり、自分たちが出した意見が何年後かに結果として見えて良かったと思うので、ワークショップなどで若い人たちの声を聞いて、それを私達が、今の若い人たちがどのように考えているかがわかるような形が良いと思っている。

委員 委員になったからにはできるだけ協力していきたいと思うので、日程に関して、1年間というのは無理だとしても、余裕を持ってお知らせいただけると確

保しやすい。

委員 4月の第1回の審議会ではアンケートのたたき台やワークショップについて議論するとのことであり、おそらく様々な意見が出ると思う。

1時間半では終わらないと思うので、開始時間を1時間早めるなどしていただきたい。

また、年間スケジュールがハードなので、3か月分くらいをまとめて教えていただきたい。

10 担当課 市長公室政策企画課